

埼玉医科大学雑誌投稿規定

(平成 14 年 1 月 1 日施行)

(令和 6 年 7 月 16 日改訂)

- 第 1 条 本誌には国内外を問わず他誌に未発表の原著、短報、総説、解説、臨床研究、症例報告、資料および雑報などを掲載する。
総説は原則として編集委員会の依頼によるものとする。別頁として Thesis (埼玉医科大学大学院医学研究科 (以下「大学院医学研究科」という) で学位審査に合格した Thesis) を掲載する。本誌の発行は埼玉医科大学ホームページ (<http://www.saitama-med.ac.jp/>) への掲載、冊子体により行う。
- 第 2 条 論文の筆頭著者は、埼玉医科大学医学会会員に限る。ただし、依頼原稿ならびに本学教授の紹介がある場合には、この限りでない。
- 第 3 条 本誌は埼玉医科大学雑誌編集委員会 (以下「編集委員会」という) が編集する。
- 第 4 条 原稿は邦文または英文とする。論文の書き方は付記 1 を参照とする。
- 第 5 条 投稿論文の研究について、他者との利害関係の有無を記載した利益相反に関する自己申告書 (<http://smswww.saitama-med.ac.jp/kyoudou/igakkai/R6riekisouhan.doc>) を提出する。本書類は論文の採否には影響しないが、論文が本誌に掲載される際に明記される。
(参考) 利害関係がない場合には、以下の文言が論文の第一頁の下段に挿入されることになる。
○著者全員は本論文の研究内容について他者との利害関係を有しません。
○ The authors declare that there are no conflicts of interest associated with the present study.
- 第 6 条 埼玉医科大学雑誌投稿承諾書を (<http://smswww.saitama-med.ac.jp/kyoudou/igakkai/idaishi/shinkokusho.pdf>) を用いて、研究課題に該当する倫理審査委員会などの適切な審査を受けていることを自己申告する。
- 第 7 条 人を対象とした論文は、ヘルシンキ宣言の倫理綱領を遵守したものでなければならない。大学倫理委員会あるいは研究を実施する施設の倫理審査委員会 (埼玉医科大学の 3 病院 IRB および保健医療学部倫理委員会を含む) において承認を得ていることを必須とし、論文の中に明記する。また動物実験や組換え DNA 実験などにおいては、研究計画を研究実施施設の動物実験委員会あるいは組換え DNA 安全委員会等に申請し承認を得ていることを必須とし、論文の中に明記する。
- 第 8 条 本誌で発表された論文等に関連する不正行為 (捏造、改ざん、盗用等) ならびに研究費の不正使用に対しては本学関連規定を適用する。また、審査中に判明した場合には論文を却下する。
- 第 9 条 電子投稿を原則とする。電子投稿が困難な場合には事務局に連絡する。
- 第 10 条 投稿原稿は、以下の書類を添付の上、編集委員会 (Email: igakkai@saitama-med.ac.jp) 宛に提出する。添付ファイル容量が大きくメールで送信できない場合には、ファイル転送サービス等を利用する。
1. 添付ファイル (ディスク等のメディア) で提出するもの。
(1) 「付記 1 の原稿フォーマット」に従って作成した論文原稿。
(2) 上記の論文原稿を一つにまとめて PDF 形式にしたもの。
(3) 作成に使用した OS、ソフトウェア、バージョンを記載した書面。
2. 原本を郵送するもの
(1) 全著者が署名した投稿承諾書
(2) 全著者が署名した利益相反に関する自己申告書。
(3) 英文論文は英文校閲を受けたことわかる書類。
- 第 11 条 Thesis の投稿上の注意
1. 投稿予定のない Thesis は本投稿規程に合致していれば全文を掲載する。
2. ただし、投稿予定が後日取り消された場合、医学会誌編集長にその旨を報告すれば、全文の掲載を考慮することがある。
3. Thesis の投稿に際しては、以下の書類を添付する。
(1) 大学院医学研究科発行の学位取得証明書または学位審査合格証明書。
(2) 『学位規則のうち博士に関する運用細則』『学位申請論文 (Thesis) 作成の手引き』に記載された引用に関する証明書。
(3) 引用した図表に関しては著作権を有する出版者からの転載許可書。
(4) 引用、転載に関する編集委員会所定の用紙による誓約書。

- 第12条 編集委員会は、査読が必要な論文（原著、短報、総説、臨床研究、症例報告、資料）には査読を行った上で、投稿論文の採否を決定し、著者に通知する。投稿原稿は返却しない。
- 第13条 査読後、コメントがついた場合は原稿返送後3カ月以内に再投稿すること。追加実験等により期日に間に合わない場合は、事務局に相談することとする。連絡なく、期限が過ぎた場合には新規投稿として扱うことになる。
- 第14条 受理された論文に対し、著者の希望により掲載証明書を発行する。Thesisは本規定に合致していれば掲載される。原稿の掲載は採用順とする。受理された原稿は返却しない。
- 第15条 初校は著者校正とし、再校以後は編集委員会において行う。校正時の誤植以外の訂正や変更は編集委員会の許可を得る。校正期限を厳守する。
- 第16条 著者は論文の受理時（Thesisは投稿時）、最終決定稿を電子的ファイル（ディスク等のメディア）で提出する。図表の作成にパソコンを用いた場合は、図表の電子的ファイルも提出する。これらは返却しない。
- 第17条 出版に要する経費は、依頼原稿等を除き、著者の実費負担とする。著者はその負担金を編集委員会からの概算払請求により論文の受理時に支払う。出版後直ちに清算する。
- 第18条 本誌に掲載した論文等の著作権は埼玉医科大学医学部に帰属する。

付記1 論文の書き方

- 付記2 AIやAI支援ツール（以下、AIツール）を補助手段として使用して論文作成される場合は、以下の規定を設ける。
- (1) AIツールを、著者として入れることはできない。
 - (2) AIツールを使用した場合、その旨を「対象と方法」(Materials and methods)の部分での記述を求める。
 - (3) 論文原稿の言語〔英語〕や読みやすさの改善に生成AIを使用した場合、「謝辞」(Acknowledgements)の部分の記述を求める。
 - (4) 文法やスペルの確認等のルーチン作業に基本的なツールを利用した場合は、その必要はない。
 - (5) AIツールにより作成された論文原稿の内容に、著者は全責任を負うものとする。

付記 1：論文の書き方

(1) 論文作成

- 1) 原著の本文は原則として、抄録、緒言、方法（材料）、結果（成績）、考察、結論または要約、謝辞、引用文献の順に記載する。
- 2) 和文の原著、短報、症例報告（以下「原著等」という）には、英文の表題、著者名、所属、住所と和文抄録に加えて、400語以内の英文抄録（keywords 付）をつける。英文の原稿は、英文抄録（keywords 付）に加え、和文の表題、著者名、所属、住所と 800 字以内の和文抄録もつける。
- 3) 和文は口語体を使い、現代仮名遣いによる漢字・平仮名交じり文で書く。外国人名は原字をそのまま用いる。慣用の和訳名のある外来語および動植物の和名は片仮名で書く。
- 4) 単位は国際単位系（理科年表、国立天文台編、丸善、最新版を参照）を使用する。
- 5) 和文は口語体を使い、現代仮名遣いによる漢字・平仮名交じり文で書く。外国人名は原字をそのまま用いる。慣用の和訳名のある外来語および動植物の和名は片仮名で書く。

(2) 原稿フォーマット

- 1) 「本文ファイル（表紙含む）」、「図ファイル」、「表ファイル」を個別に作成すること。図、表は 1 つ 1 つ個別のファイルとすること。
- 2) 本文：Microsoft Word 2016 以降で作成。
- 3) ファイル名は「Main document_著者名」とする。
- 4) ページレイアウト：
 - 邦文：A4 サイズ、横書き、30 字×20 行（600 字）、MS 明朝、12 ポイント、現代かな使いを用いる。
 - 英文：A4 サイズ、ダブルスペース、Times New Roman、12 ポイントで作成する。
- 5) 原稿は必ず英文校正業者等、英語を母国語とする専門家による校閲を受けること。その費用負担は著者とし証明書を提出する。
- 6) 単語の綴りは行末で切れないようにする。
- 7) 表紙を除き本文には行番号と頁下中央に通し番号を付ける。
- 8) 図表・写真：
 - 図表に使用する言語は英語が望ましい。ファイル名は「Fig 1_著者名」、「Table 1_著者名」等とする。
 - Microsoft の Word、Excel、Power Point など編集可能な形式で作成すること。
 - 図表には Fig 1、Table 1 というように一連の番号を付し、本文中に挿入位置を指示する。
 - 写真は鮮明なコントラストを持つようにする。
 - TIFF（*.tif）形式または JPEG（*.jpg）形式（保存時、必ず高画質、低（無）圧縮を選択、解像度は掲載希望サイズの実寸で 300 dpi（1 インチ当たり 300 ドット）以上が望ましい）とする。
- 9) AI や AI 支援ツールを補助手段として使用して論文作成される場合は付記 2 を参照とする。

(3) 原稿の長さは以下を限度とする。

| | 論文種別 | 原稿（本文＋図表） | 抄録（英文） | 抄録（和文） | 文献 |
|------|------|-----------|--------------|---------|--------|
| 和文論文 | 原著 | 10 頁以内 | 400 words 以内 | 800 字以内 | 40 編以内 |
| | 症例報告 | 3 頁以内 | 400 words 以内 | 800 字以内 | 20 編以内 |
| | 短報 | 2 頁以内 | 400 words 以内 | 800 字以内 | 10 編以内 |

*ただし、図・表・写真に関しては 1 点 700 文字相当と換算する。

| | 論文種別 | 原稿（本文＋図表） | 抄録（英文） | 抄録（和文） | 文献 |
|------|---------------------|--|------------------------|---------|--------|
| 英文論文 | Original Article | Word count; less than 5,000 words except abstract and references | no more than 400 words | 800 字以内 | 40 編以内 |
| | Case Report | Word count; less than 2,000 words except abstract and references | no more than 400 words | 800 字以内 | 20 編以内 |
| | Short Communication | Word count; less than 1,000 words except abstract and references | no more than 400 words | 800 字以内 | 10 編以内 |

*ただし、図・表・写真に関しては 1 点 150 words 相当と換算する。

(4) 原稿の構成

原著 (Original Article)

| 邦文 | 英文 |
|----------------|--|
| 表紙 | Title page |
| 要旨 (英文および邦文) | Abstract |
| 序文 | Introduction |
| 材料と方法あるいは対象と方法 | Materials and methods, or Patients and methods |
| 結果 | Results |
| 考察 | Discussion |
| 謝辞 | Acknowledgment |
| 利益相反 | COI |
| 文献 | References |
| 図表 (英文) | Figures & Tables |
| 図表の説明 (英文) | Legend to figures and tables |

症例報告 (Case Report)

| 邦文 | 英文 |
|--------------|------------------------------|
| 表紙 | Title page |
| 要旨 (英文および邦文) | Abstract |
| 序文 | Introduction |
| 症例 | Case report |
| 考察 | Discussion |
| 謝辞 | Acknowledgment |
| 利益相反 | COI |
| 文献 | References |
| 図表 (英文) | Figures & Tables |
| 図表の説明 (英文) | Legend to figures and tables |

短報 (Short Communication)

報告内容に合わせ上記を参照の上, 作成する.

(5) 表紙原稿:

1) 記載事項

表題 (邦文・英文)

著者名 (邦文・英文)

所属機関名 (邦文・英文)

キーワード (英語の小文字・単数形で記載) ランニングタイトル: 邦文論文: 邦文 20 字以内. 英文論文: 英文 10 words 以内.

投稿者の E-mail address

ページ数および図表の数

Corresponding author: 氏名, 住所, E-mail address を記載する.

2) 留意事項

Equal contribution がある場合でも連絡先の記載は 1 名のみとする.

(6) 学名はイタリック体を用いる.

菌名・薬剤名・病名等は省略せずに記述し, 略号を用いる場合には文中にその旨記す. 但し菌名の表示では初回はフルスペル (例 *Staphylococcus aureus*) とし, 2 回目からは属名の頭文字のみ (*S. aureus*) とする.

(7) 単位・数量をあらわすには, m, cm, mm, μm , nm, L, dL, mL, μL , kg, mg, μg , ng, pg, $^{\circ}\text{C}$, %, hr, min, sec 等を用いる (符号の後に点をつけない). 数字はアラビア数字を用いる. 表題には商品名を用いない. 文中に登録商標名を使用する際は, 最初を大文字とし, 登録商標名のあとに社名を括弧書きして表記する. 登録商標であることの記号表示 ($^{\circ}$, $^{\text{TM}}$ など) は表示しないこととする.

(8) 引用文献は, 本文中の引用した箇所の右肩に片カッコ付で番号を付して引用順に末尾に一括し, 次の形式によって記載する.

雑誌名の略記は「医学中央雑誌」及び「Index Medicus」に従う.

引用文献の記述形式は生物医学雑誌に関する統一規定 Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals (いわゆる Vancouver style) に準ずる (最新版については, 関連ホームページサイト <http://www.icmje.org/> や http://www.nlm.nih.gov/bsd/uniform_requirements.html を参照のこと). すなわち著者が6名以下の場合には全員記載し, 7名以上の場合には初めの6名を載せ以下 “et al” (和文の場合には “他”) とする. 著者のイニシャルの後にピリオドは不要.

例:

1) 雑誌 (英文):

Vega KJ, Pina I, Krevsky B. Heart transplantation is associated with an increased risk for pancreatobiliary disease. *Ann Intern Med* 1996; 124: 980-3.

2) 雑誌 (和文):

松谷雅生, 杉山聡, 藤巻高光, 中村治. 成人大脳半球 non-pilocytic astrocytoma の治療. *脳外誌* 1999; 8: 182-8.

3) 雑誌 (英文):

Parkin DM, Clayton D, Black RJ, Masuyer E, Friedl HP, Ivanov E, et al. Childhood leukemia in Europe after Chernobyl: 5 year follow-up. *Br J Cancer* 1996; 73: 1006-12.

4) [単行本] 一冊引用 (著者によるもの) 英文例:

Ringsven MK, Bond D. *Gerontology and leadership skills for nurses*. 2nd ed. Albany (NY): Delmar Publishers; 1996.

5) [単行本] 一冊引用 (著者によるもの) 和文例:

山内俊雄. 性転換手術は許されるのか 性同一性障害と性のあり方. 東京: 明石書店; 1999.

6) [単行本] 一冊引用 (編集者によるもの) 英文例:

Norman IJ, Redfern SJ, editors. *Mental health care for elderly people*. New York: Churchill Livingstone; 1996.

7) [単行本] 一冊引用 (編集者によるもの) 和文例:

片山茂裕, 他編. *Clinical Case-Oriented 症例に学ぶ高脂血症治療 専門医のみるポイント 48 + α* . 東京: メジカルビュー社; 2001.

8) 部分引用英文例:

Phillips SJ, Whisnant JP. Hypertension and stroke. In: Laragh JH, Brenner BM, editors. *Hypertension: pathophysiology, diagnosis, and management*. 2nd ed. New York: Raven Press; 1995. p. 465-78.

9) 部分引用和文例:

別所正美. 造血治療薬. 和田攻, 他編. *治療薬ガイド 2001-2002*. 東京: 文光堂; 2001. p. 519-27.

10) HP からの引用:

厚生労働省. “新型コロナウイルス感染症 COVID-19 診療の手引き第 8.1 版” 厚生労働省. 2022-10-25. <https://www.mhlw.go.jp/content/000936655.pdf> (参照 2022-11-15)

(9) 報告書, 特別講演, 資料は原則として白黒印刷とする.

学会発表は下記の取り決め例に従って記す.

(例) 東丈裕, 松下祥. 株化細胞を用いた試験管内アジュバント活性定量評価法とその応用, 第 38 回日本免疫学会総会, 平成 20 年 12 月, 京都